

七条中学校だより夏休み2号

京都市立七条中学校

令和8年8月16日

発行:校長 林 秀雄

平和を未来へつなぐために

蝉の声が響く8月15日。今年も終戦の日を迎えました。戦争を知らない世代が大半となった今、平和は空気のように当たり前のものと感じられるかもしれませんが、しかし、その平和は多くの人々の犠牲と願いの上に築かれたものです。未来を担う皆さんに、ぜひ心に留めてほしいことがあります。

8月15日、私たちは81回目の終戦の日を迎えました。夏休み中の出来事ではありますが、この日をもつ意味について、ぜひ皆さんと共有したいと思います。81年前の1945年8月15日、日本は長く続いた戦争を終えました。戦争は、日本だけでなく世界中の国々に大きな傷跡を残しました。戦場で命を落とした人々はもちろんのこと、空襲によって家や家族を失った人、食料不足や病気に苦しんだ人など、多くの人々が大変な犠牲を払いました。

皆さんは、戦争という言葉をもどのように受け止めているのでしょうか。教科書やテレビ、インターネットなどを通して知る歴史上の出来事と感じている人も少なくないかもしれません。しかし、81年前の日本では、今の皆さんと同じ中学生くらいの年齢の子どもたちが、戦争の中で生活していました。十分な食料もなく、自由に遊ぶことも学ぶことも難しい状況の中で日々を過ごしていたのです。

私たちは今日、朝起きて学校へ行き、友達と話し、勉強し、部活動に励むことができます。帰宅すれば家族と食事をし、自分の夢や将来について考えることもできます。こうした日常は、あまりにも当たり前のことのように感じられるかもしれませんが、それは平和な社会があってこそ実現できるものです。

当たり前の日常ほど、その価値を見失いがちです。しかし、戦争の歴史を振り返ると、「学校で学べること」「家族と過ごせること」「安心して眠れること」が決して当たり前ではないことに気付かされます。平和とは特別なものではなく、私たちの日々の暮らしそのものなのです。

一方で、世界に目を向けると、現在も戦争や紛争が続いている地域があります。家を追われ、不安の中で生活している子どもたちもいます。私たちは平和な国に暮らしていますが、平和は自然に続くものではありません。過去の経験から学び、その大切さを理解し、守り続けようとする人々の努力によって支えられているのです。

では、私たち中学生や大人に何ができるのでしょうか。私は、平和を守る第一歩は「相手を尊重すること」だと思います。戦争は、国と国の対立だけではなく、人と人が互いを理解しようとしないうところから生まれることがあります。もちろん、友達とのけんかと戦争を同じに考えることはできません。しかし、自分と異なる意見をもつ人を認めない、相手の気持ちを考えずに傷つける、力によって自分の考えを押し通そうとする。そうした行動は、平和とは反対の方向へ進むことになります。

学校生活を振り返ってみましょう。友達の話をしっかり聞くこと、相手の立場に立って考えること、困っている人を支えること、違いを認め合うこと。こうした行動は、一見すると小さなことに思えるかもしれませんが、しかし、その積み重ねこそが平和な社会の土台になります。

皆さんはこれから未来を担う世代です。AIや情報技術が発達し、世界中の人々と簡単につながるができる時代を生きています。その一方で、価値観の違いによる対立や誤った情報による分断など、新たな課題も生まれています。だからこそ、相手を理解しようとする姿勢や、人権を尊重する心がますます重要になります。

終戦の日は、過去を振り返るための日ではありません。戦争によって亡くなられた方々への哀悼の気持ちを持ちながら、今の平和な暮らしに感謝し、これからの平和をどのようにつくっていくかを考える日でもあります。

私は皆さんに、平和について難しく考えてほしいのではありません。まずは身近なところから始めてほしいと思います。人を大切にすること、命を大切にすること、思いやりをもって行動すること。その一つ一つが平和につながっています。

81回目の終戦の日を迎えた今、私たちは戦争を経験した世代から直接話を聞く機会が少なくなっています。だからこそ、歴史から学び、その記憶を受け継いでいく責任があります。そして、平和の尊さを自分自身の言葉で語れる人になってほしいと思います。

皆さん一人ひとりが、学校で、地域で、そして未来の社会の中で、互いを尊重し合いながら生きること。その積み重ねが、平和な未来を築く力になると信じています。

この終戦の日を機に、今ある平和の意味をもう一度見つめ直し、自分にできることは何かを考えてみてください。そして、平和を未来へつないでいく担い手として成長してくれることを心から願っています。